

銘傳大學 98 學年度研究所碩士班招生考試

應用日語學系碩士班

第四節

日本文學史試題

(第 1 頁共 2 頁) (限用答案本作答)

可使用計算機 不可使用計算機

* 本試験はすべて日本語で答えなさい。

一、次の項目を自由に **八つ** 選びなさい。その内容を 200 字以内の短文で紹介しなさい。(8×5%=40%)

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ① <もののはれ> | ② <さび> | ③ <言霊信仰> |
| ④ 清少納言 | ⑤ 森鷗外 | ⑥ 樋口一葉 |
| ⑦ 正岡子規 | ⑧ 「三田文学」 | ⑨ 「新感覚派」 |
| ⑩ 『今昔物語集』 | ⑪ 『道程』 | ⑫ 『不如帰』 |

二、次の文章「警視總監の笑い」をよく読んで、後の問いに答えなさい。(20%)

昭和十×年の二月の或る朝、さわ子はいつも郵便物をおく慣らわしになっている食堂の食器棚の上に自分宛の小さい封筒を見出した。それは見知らぬ女のひとからの手紙であって、読んでゆくうちにさわ子は、とうとう、(A) 風祭 落子が自分の生活のなかに運びこまれてきたことを覚った。

その手紙は落子が現在孤独で不遇であり救援を要する境涯にいると述べていた。差出人は落子を二年間教えた川端裁縫女学校の女教師で、控え目な慎重な書き方であったが、さわ子が肉親の一人であることだけを頼りに、そのような手紙を書き送らねばならなかったということの中に胸をつくものがあった。さわ子はすぐに電話帳を繰り、その裁縫女学校へかけてみたが、青木梅子というその先生はその日は、授業のない日で、一日おいた金曜日でなければ会えないことが判った。

さわ子は昼食の時、アトリエから出て来た良人の国四郎にそのことを話した。

「不遇ってどんなふうなんだ」

国四郎新聞に目をやったままですわねた。

「さあ、会ってみなければ判らないけれど、きっとおじいさんが亡くなったんでしょうね。もう八十いくつかですもの」

「落子はいくつになる」

さわ子は胸のなかで年数をくってみた。

「はたちくらいでしょうね。パリで風祭に会った時が七つ八つでしたから」

本試験両面印刷

銘傳大學 98 學年度研究所碩士班招生考試

應用日語學系碩士班

第四節

日本文學史試題

(第 2 頁共 2 頁) (限用答案本作答)

可使用計算機 不可使用計算機

面倒なことのきれいな国四郎はこんな問題がもちこまれたことを喜ばない様子であったが、むしろパリで一二度会った落子の父、風祭正実の印象によって僅かばかりの好奇心を感じているふうだった。落子はさわ子の姉増子が初婚の家風祭家に遺して来た一人娘で、(B) 世間的には縁の切れた叔母姪の間柄であった。さわ子は国四郎がパリで会った風祭正実の豪快と見えたり洒脱にも見れば見られる処世の姿に、焦点を合わせて観察しようとする心の向きを不本意に思ったが、複雑で策謀に満ちた風祭一族の性格や過去を説明しても、その入り組んだ関係を正しく了解してもらうためには、国四郎の(C) 心に場所が無いことを感ぜずに居られなかった。国四郎は風祭がロンドンではサヴォイホテルに部屋をもちパリに来ては著名な日本人の画家や作家達とへだてのない交際をしていたことで、わけの分かった紳士だと思いこんでいる様子だった。国四郎はパリで風祭からさわ子の知らないまに、サントエチアンヌという小型のピストルをもらったりして今でも秘蔵していた。――

「ともかく会ってみますわ」

(D) 国四郎もそのことには同意した。

由起しげ子「警視總監の笑い」(1951)

問題一 傍線部 A「風祭落子が自分の生活のなかに運びこまれてきた」とはどのようなことを意味するのか、説明しなさい。(4%)

問題二 傍線部 C「心に場所が無い」とはどういうことか。分かりやすく言い換えなさい。(8%)

問題三 傍線部 D「国四郎もそのことには同意した」とあるが、この時の国四郎の気持ちを説明しなさい。(8%)

【以下の問題三、四、五を 300 字以上 書きなさい。】

本試題両面印刷

三、プロレタリア文学の傑作として名高い、小林多喜二の『蟹工船・党生活者』(新潮文庫)が、2008年に日本では35万部を超す売れ行きでした。作者と作品について述べなさい。(15%)

四、<能>と<歌舞伎>について知っていることを述べなさい。(15%)

五、あなたの好きな日本文学の作品を一つ紹介しなさい。(10%)

試題完